



「比叡山三大魔所」のひとつに数えられる慈忍和尚廟。静寂のなか聳える杉の大木は比叡山最古の樹齢を数える

比叡山は古来、聖地として崇められ、宗祖伝教大師が開かれてから日本仏教の母山、根本道場として多くの人々の篤い信仰によって護られてきました。そんな紡がれてきた想いがこのようないふねに込められているのでしょうか。

これらの説話は一聞ただの怪談話のようですが仏道修行や持戒の大切さ、そして自ら気が付きにくい自惚れなど慢心を戒めたり諭したり、何事にも真剣に取り組む尊さを説いています。その他山僧や堂宇、石や木にまつわる伝説が多く残されているのは、神や靈、自然への畏怖の念からであり「山川草木悉皆成仏」の教えに通じるものでしよう。

比叡山には様々な伝説や説話が伝えられています。中でも有名な一つ目小僧の話は、戒律に厳しかった慈忍和尚（第十九代天台座主尋禪）が亡くなられてからも妖怪となつて現れ、修行を怠けがちな若い僧侶らに鈴を鳴らしながら金縛りにかけるというもの。龍ヶ池の大蛇の話は、麓の町で悪さを繰り返す大蛇を元三慈恵大師（第十八代天台座主良源）がこらしめたというもので、「大きく化けることが出来るなら小さくもなれるか」というと「ワシに出来ぬことなどない」と掌に乗った所を捕まえ池に封じ込みました。その池が横川の龍ヶ池です。

比叡山には様々な伝説や説話が伝えられています。中でも有名な一つ目小僧、なすび婆、一文字狸、龍ヶ池の大蛇、船坂のもや船、おとめの水垢離（みずごり）、六道おどり。これらをあわせた「比叡山の七不思議」が有名です。中でも有名な一つ目小僧の話は、戒律に厳しかった慈忍和尚（第十九代天台座主尋禪）が亡くなられてからも妖怪となつて現れ、修行を怠けがちな若い僧侶らに鈴を鳴らしながら金縛りにかけるというもの。龍ヶ池の大蛇の話は、麓の町で悪さを繰り返す大蛇を元三慈恵大師（第十八代天台座主良源）がこらしめたというもので、「大きく化けることが出来るなら小さくもなれるか」というと「ワシに出来ぬことなどない」と掌に乗った所を捕まえ池に封じ込みました。その池が横川の龍ヶ池です。

人々に紡がってきた伝説と説話



発行所
比叡山時報社
□jihoh@deluxe.ocn.ne.jp
大津市坂本町4220
郵便番号 520-0116
電話 077-578-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

叡山講福聚教会
会報
年度会費(3000円)中に会報(比叡山時報)購読料を含む。

永劫続
令和元年比叡山から
発信する言葉



こちらから
ご購読は

